

アイゴ『EYE-GO』 視覚障害者用の立体碁盤と碁石

大和田囲碁同好会 成田 滋

2013年3月3日(日)のNHKEテレ「囲碁フォーカス」をご覧になった方がおられるでしょうか。柿島光晴さんという視覚障害者が囲碁の普及活動をされているという内容でした。この番組では、視覚障害者用の改良型碁盤が製作され、さらにこの碁盤の普及を支援して欲しいということが放映されていました。

この放映後、昭和会館や恵比寿ロータリークラブの団体をはじめ、多くの個人の皆さんから製作協力金の申し出があったようです。こうした協力金のほかに碁盤製作用の金型を福岡県のある社から無償の供与を受け、改良型碁盤碁盤と碁石が製作されます。この視覚障害者専用の囲碁盤は通称『アイゴ』(EYE-GO)と呼ばれています。【アイ】

【目】が見えなくても【ゴ】(前に進め)という訳です。この囲碁盤を考案したのは米田昌徳さんという方です。病気で目が見えなくなってしまった叔父に、もう一度囲碁の楽しさを知ってもらおうとして考案したとのこと。



改良型碁盤はプラスチック製で、表が19路盤、裏が9路盤となっており、初心者から高段者まで楽しめるように工夫されています。視覚障害者のために、19路盤は盤上9か所の星の位置が盤の淵の突起を触っても分かるようになっています。視覚障害者が使う点字は突起を触って文字や数字を判別します。碁石にも突起がついて判別することができます。さらに、運搬が容易にできるように二つに折りたためるようになっています。立体的に浮かび上がった線と触感の違う碁石を触り、頭に盤面を描くことができます。これにより、視覚障害者はマインドマップと呼ばれる脳内地図の精度を向上させ、空間認知能力を

成長させることができるといわれます。

代表理事である柿島光晴さんは囲碁に出会えた喜びを一人でも多くの方々と共有・共感したいと考え、日本視覚障害者囲碁協会という NPO 法人を設立しました。従来の 9 路盤、13 路盤に加えて新たな改良型の 19 路盤を活用して、



全国の視覚障害者への囲碁普及活動に一層力を入れています。柿島さんらは、これまで国内外の多くの盲学校や視覚支援学校に『アイゴ』を寄贈し、生徒たちの目標の一つとなるよう盲学校囲碁大会も開催しています。

参考：

日本視覚障害者囲碁協会 <https://aigo.tokyo/>

日本福祉囲碁協会 <http://www2.odn.ne.jp/~hao45700/index.htm>

日本点字図書館 自立支援室

<https://www.nittento.or.jp/about/jiritsu/training.html>

(2023 年 6 月 7 日)